

上ウラ 千乘チシヤ

此類多し、今しばらく藤氏上代の人名のみ、其一二を記す、菅家の祖宇庭をウチニハと讀が如し、熊谷入道蓮生は、れんせいとよむべし、

宇都宮入道蓮生は、れんしやうとよむべし、

僧名漢音吳音によみ來れる事の多し、其宗家に聞べし、惠果ケイクハ、惠心エシン等の如し、

〔玉勝間ハ〕後鳥羽天皇の御諱のよみ

後鳥羽天皇の御諱、尊成、歴代編年集成に、タカヒラと假字附あり、成、平也といふ意なるべし、

〔尊卑分脈五〕藤原チカナリ愛發ヨシアキラ又ノリ

〔玉勝間十二〕愛發といふ名のよみ

藤原愛發といふ人あり、此名いかによむにかといふか、しかりしに、越前國の地名をとれる名にて、愛發關、あらし山などいふところなりけり、

〔玉勝間十三〕平城天皇の御名

平城天皇の御諱は、はじめには小殿オノミヤと申せしを安殿ヤシヤと改め給へり、○中ナカさてこは阿傳アトと字音に讀み奉る也、紀の國の在田郡は、もと安諦郡ヤシキにて、書紀續紀に、阿堤郡アツとも書れたるを、この天皇の御名に渉るをもて、大同元年に、在田郡とは改められき、

〔玉勝間十四〕人の名の和字の事

人の名に和字を加受カクセとよむは誤也、これは加都カトにて、都は清音なり、此言は、かてかつかつると活用て、物を和合ワカヒこと也、萬葉歌に、醬酢ヒシホ爾ニ、蒜ニ、都ツ、伎キ、合カ、而ニとある、此合而カヒニなり、

〔古事記傳二十二〕建内宿禰、建内は多タ、邪ヤ、宇ウ、智チと訓べし、世ニに此名を武之内に武之内を添ソてよむは、古言ヘルミの例あり言なり、古に建チ之ノ云クモる例あることなし、